

かわさき区の宝物シート

宝物No.	そうさんじ・ゆうじょくようとう
1-8	宗三寺・遊女供養塔

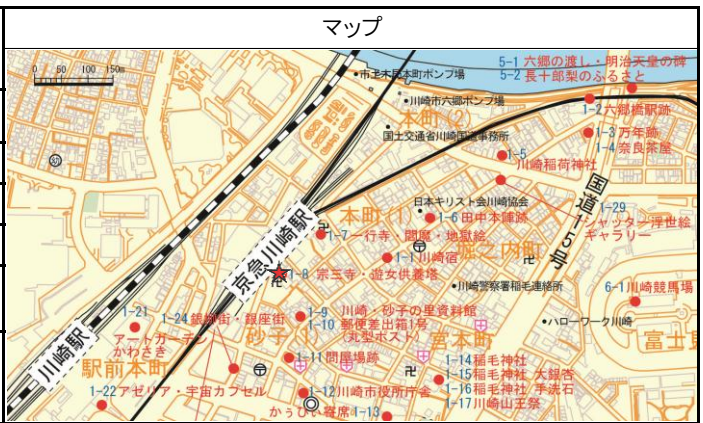


エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前北	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区砂子1-4-3
問い合わせ	宗三寺
TEL	044-222-5051
FAX	044-244-4188
E-mail	
URL	
交通	京急川崎駅より徒歩5分



基礎情報

■曹洞宗の寺。本尊は釈迦如来。鎌倉時代の僧、玄統が開山。川崎宿で最も古い寺である。境内にはかつて宿場の賑わいを支えた飯盛女（遊女）の供養塔があることでも有名。

由来・エピソード

■宗三寺は戦国期あるいは室町時代に開創したと考えられている。中世の河崎庄で信仰を集めた勝福寺の後身とみられ、その後、小田原北条氏家臣の間宮豊前守信盛が中興し、その法名である「瑞栄院雲谷宗三居士」から宗三寺と名付けられた。

■江戸時代、旅籠には「平旅籠」と「飯盛旅籠」があった。飯盛旅籠は、旅人に給仕をしたり床を共にしたりする飯盛女（めしもりおんな）を置く旅籠のこと。飯盛女とは年季奉公で近郷から売られてきた女性たちで、一般旅行者の増えた江戸後期には旅人を留めて宿場の財政を支える大きな役割を果たしていたが、多くは体を壊し、墓にも入れずに打ち捨てられた。供養塔はそんな女性たちの冥福を祈って、大正初期に川崎貨座敷組合によって建てられたものである。台座には、吉田楼、三浦屋、高塚楼など当時の遊郭楼の名前が刻まれ、また江戸時代の川崎宿の人口が男1080人、女1353人とも記されている。昭和63年(1988)に川崎今昔会によって建てられた供養塔も左側に寄り添っている。

■また、「鳥八臼（うはつきゅう）」といわれる、いまだ解明されていない謎の文字が頭部に刻まれた墓石がある。鳥八臼は室町時代から江戸時代後期につくられた曹洞宗や浄土宗関係の墓標でよく見られる。鳥を意味するものであるとか、梵字合字の崩れであるなどの諸説がある。

補足・その他

関連シート

(1-1)川崎宿